



明治大学大学院 商学研究科

シニアのための入学試験

「実践知」の「創造」と「伝承」

— 貴方の歩んで来た道を次世代に —

シニア入試の目的

明治大学大学院商学研究科では職業経験豊かな60歳以上の者を対象として、特別の入学選抜を実施しています。このシニア入試の目的は、長年の職業経験を新たな「実践知」の「創造」に結び付け、次世代に「伝承」しようとする、意欲あるシニア層の研究を支援する点にあります。

シニア入試の概要

1 入試の出願資格

次の2つの条件を満たすことが必要です。

- (1) 大学(短期大学は含みません。)を卒業した者又は卒業する見込みの者
- (2) 入学時に60歳以上の者

※なお、出願者は、シニア入試の理念を実現すべく、同一の職種または業種に25年以上の勤務経験を有する者であることを原則とします。

2 入試の選抜方法

選抜は下記(1)および(2)の二段階方式とします。筆記試験はありません。

(1) 書類審査

書類審査では「履歴書」および「研究計画書」を審査対象として、書類審査合格者を決定します。

(2) 面接試験

書類審査合格者には「小論文」(5000字程度)の提出を課し、これと「研究計画書」に基づいて面接試験を行います。

3 入試説明会

毎年4月下旬頃に開催します。受験を希望する方は必ず参加してください。

※説明会の詳細は4月頃本学商学研究科ホームページにて公開します。



明治大学大学院 商学研究科

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

Tel. 03-3296-4704 Fax. 03-3296-4352

e-mail: dai_in@mics.meiji.ac.jp

URL: http://www.meiji.ac.jp/dai_in/commerce/index.html

シニア入試にて入学した院生さんからのメッセージ

鈴木 佳光さん 博士前期課程 2015年度入学



●シニア入試を受験しようと思った理由は何ですか。

総合商社で約40年間食糧、食品を中心に本社、海外駐在、関連会社や取引先への出向等を経験しましたが、私の会社人生が次世代に少しでもお役に立てばと思い受験を決めました。

●シニア入試を受験するにあたって、何か準備をしたことはありますか。

会社人生を振り返り、履歴書の作成と大学院で研究テーマを何にするかという研究計画書を取りまとめました。

●現在、どれくらいの頻度で大学に通っていますか。また、授業の様子についても教えてください。

週4日6科目(貿易商務、演習、国際ビジネス交渉、外国文献、物流、実

践商学)がベースです。他の大学院生と同様に発表を行いますし、質疑応答もやります。実社会を経験していますので現実的なコメントをするように心がけています。

●他のシニア院生の方や、一般学生と交流する機会はありますか。

シニア院生とは定期的に会っています。同期生4人は60~70才で経歴は異なりますが、それぞれの業界の経験者としての考え方や生き方が友人として貴重なものになっています。一般学生からは就活のアドバイスを求められたり、飲み会に参加したりもします。

●シニア入試を検討している方に向けたメッセージをお願いします。

大学院の研究施設や環境の素晴らしさには驚きました。新たな出会いや発見のため、シニア入試をお勧めします。人生が変わること間違いありません。

高松 俊和さん 博士前期課程 2013年度入学



●シニア入試を受験しようと思った理由は何ですか。

還暦を過ぎ、自らの人生を振り返った時に、何か物足りなさを感じていました。あるリバティアカデミー講座を受講するため久しぶりに駿河台に来て、「学ぶ」ことに心を揺さぶられ「シニア入試」を知り、受験しました。

●入学前はどのようなお仕事をされていたか。また、現在の研究テーマについても教えてください。

俗に言う「町工場のおやじ」でした。40年近く、表面処理の一種であるめっきを業とする小規模企業の経営に携わり、仕事は営業、経理、研究開発等自社に必要な全てでした。現在、中小企業から見た分業構造について研究しています。

●これまでの職業経験から得た「実践知」は、どのような形で今の研究に活かし、修士論文にまとめる予定ですか。

職業経験からの知識は、極めて狭い範囲のものであり、多くの失敗もありました。大学院の授業、演習を通してかなり幅の広いものになりつつあると感じています。次世代に託せる価値のある、俯瞰した論文が目標です。

●大学での研究環境について、どのような感想をお持ちですか。

教授との質疑応答、議論を通じ新たな視点と幅広い知識が修得出来ます。図書館を始め、共同研究室、メディア関連など研究活動に対するサポートも充実しています。

●シニア入試を検討している方に向けたメッセージをお願いします。

「今さら、何を・・・」と思われるかもしれませんが、「次世代に託す」熱い思いを抱いている方には是非チャレンジしていただきたい。驚くほど充実した時を過ごせるし、あなたの今後の人生が必ず変わります。

竹内 正実さん 博士前期課程 2013年度修了、博士後期課程 2014年度入学

●入学前に従事されていたお仕事と、博士前期課程・博士後期課程での研究テーマについて教えてください。

航空会社に32年間在籍し、貨物事業中心に海外子会社運営、海外支店運営等に携わりました。海外勤務が長く、ロンドン2年、ニューヨーク5年、インドネシアのパリ島に4年勤務しました。博士前期課程の研究テーマは「荷主ニーズの変遷からみた航空貨物輸送の発展」、博士後期課程では、「物的流通における航空貨物輸送の役割」を中心に研究しています。【日経新聞夕刊2015年1月27日社会面に掲載】

●博士前期課程での研究生生活を振り返って、入学してよかったと思える点をお教えてください。

私が専攻しているゼミのほかに、『国際貿易論・途上国経済論』のゼミに2年間参加させていただき、先生から「研究の視点と経済多様性を包括する懐の深さ」をご指導いただき、またゼミの優秀な若手研究者達からはダイナミックな研究姿勢の多くを学びました。指導教員をはじめとして、先生方から沢山の研究者の方々をご紹介いただき、それらは私の現在の宝物となっています。

●博士後期課程への進学を考え始めた時期と、そのきっかけについて教えてください。

修士論文提出時に、まだまだ研究の質(分析視角、テーマの斬新さ等)がレベルに至っていないことを痛感し、博士後期課程への進学を考えました。その際他大学院を含めて出願しましたが、明治で現在の指導教授にご指導いただくことが最適と考え、現在に至っております。

●博士後期課程での研究生生活はどのようなものですか。博士前期課程との違いがあれば、教えてください。

一口で申し上げて、人生で「至福の時」を送っています。自分の研究テーマが見つかるまでは、七転八倒しましたが、見つければ視界が開けてきます。博士後期課程は、自分から光ることが大切です。ご指導いただける先生方々との邂逅、学会への積極参加、リバティアカデミー講座の講師、他大学での講師、産業界各種サークルへの参加、プレスとの接触等、フルスイングの毎日です。

●シニア入試を検討している方に向けたメッセージをお願いします。

研究に対する究極の目的は人それぞれですが、ペンの力で、社会の一隅を照らすことができたらと思います。しかし、社会の変革のスピードが学問の発展をはるかに追いつけている現実と直面しています。ひょっとすると、このギャップをシニア入試を志す皆さんは、少しでも埋められるかも知れません。人生は「60歳まで助走期間、60歳からが本番」です。皆さん、是非シニア入試の扉をたたいてみてください。博士前期課程の2年間はあっという間です。是非博士後期課程への進学をお奨めします。

